

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			0.31			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.1.1 室温設定		<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
4 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.2</b>	0.30	-	-	
3.1.1 昼光率	昼光率 2.5%以上としている。	<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.3.1 照度		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	-	-	<b>3.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
4.1.1 化学汚染物質	化学汚染物質発生材を不採用としている。	<b>5.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>2.3</b>	0.30	-	-	
4.2.1 換気量		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮		<b>1.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1.1.1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>4.3</b>	0.40	-	-	
1.2.1 広さ感・景観	天井高さを2.7M以上としている。	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース及び自動販売機置場を確保している。	<b>5.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 内装計画	流通センターと、執務エリアの機能を明確化し、内装に反映させて	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
<b>1.3 維持管理</b>		-	-	-	-	
1.3.1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-	
2.1.1 耐震性		<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2.2.1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-	

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	吊配管を採用している。	4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	浸水の危険性のない計画としている。	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	吊配管等を採用している。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	通信の多様化を図り、浸水の危険がない計画としている。	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.8	0.29	-	-	4.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高5.75～8.00Mとしている。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.05としている。	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		10000～15000N/m2としている。	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	構造、仕上に干渉せずに更新が行える様配慮している。	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	同上	5.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	同上	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	同上	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	同上	5.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	設備周囲に有効なスペースを計画している。	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.39	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出		既存緑地の保全と新設緑地に配慮している。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		この地区での新しい流通施設としてのシンボルとなる様考慮している。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		舗装面積を極力減らすよう努めている。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制		事務所エリアに断熱材を使用し、熱負荷抑制に配慮している。	5.0	0.03	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.28	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=27.8	5.0	0.42	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.28	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2 雑排水再利システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.63	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		外構エリアについて再生骨材の盛土利用を行う。	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げを容易に分離できるよう配慮している。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を採用している。	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1 消火剤		ハロン消火剤を使用しない。	4.0	0.33	-	-	
2 断熱材		ノンフロン断熱材を採用している。	5.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2削減率14%としている。	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		浸透貯留槽の採用をしている。	4.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		駐車スペースを確保し、渋滞を起こさないよう計画している。	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		分別収集を行える様計画している。	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策チェックリストの過半を満たしている。	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		反射光の影響の内容配慮している。	5.0	0.30	-	-	